☆ 教 宣 部 学 習 会 ☆

やりがいのある仕事とは

７月５日、教宣部主催として立憲民主党・辻元清美参議院議員の秘書、宮本裕美さんから「職の選択、議員を支える立場から」として学習会を開催した。

内容は議員を支える秘書は、国民と議員の間に立って関係を維持し政策実現のために議員をサポートするのが仕事で、とても重要な役割だ。プロフィールとして高校生のとき、新設校で生徒会長に立候補し当選し、体育祭や規則など自分たちで決めることができた。これが政治という感覚があった。　それでも「悪いやつしか政治家にならない」と思い込んでいたとき、政治家に会うことを目的として、８日間の合宿という政治塾に参加した。そこでは20代～40前後の方が50名も参加していて、朝から夜まで勉強した。そして「政治家は悪いやつしか、いないんですよね」と発言したことで、落第と思ったが合格した。それは政治家のイメージを払拭したいからだと思った。また、そこで出会った人たちが著名人を多くて「日本を良くしたい人がこんなにいる」と感じた。

議員の経験を経て　議員秘書を目指す

宮本さんは、2007年に香川県議会議員選挙で当選し、１期務め、２期目で落選。親の反対もあり、表舞台での活動は断念。最前線でやりたい気持ちもあったが、裏方として最前線にいる人を支えたいと、尾辻かなこさんに相談し、そして辻元清美さんと出会い、いろいろな支援をしてきた中、2019年に秘書に選ばれた。

秘書の業務内容は、議員が行う質問の作成や資料の収集、会議や行事への代理出席、議会質問の準備、政策の立案、法律案の起草、政府との折衝、来客や電話の応対、選挙対策など多岐にわたる。政治家の議員活動を補佐するためには、法務・経済・語学などの基礎知識が必要だ。そんな重要な業務なのに、賃金の支給は、政策担当秘書らは公務員なので国から支給されるが、宮本さんは私設秘書なので国から賃金は出ず、後援会から支給されている。しかし、議員が落選すれば賃金は出ない。でも、政治を担う議員のバックアップは誰にでもできないことを理解し、労働者のように休日も定期的に取れないが、人をサポートすることが好きで、秘書という職に宮本さんはやりがいを感じている。

それは労働組合の役員や分会員も同じだろう。困っている労働者がいれば時間関係なく相談にのり、会社に駆けつけ抗議する。私は、秘書の仕事と共通するのでないかと思っていた。職の選択は人それぞれ違うが、同じような境遇で現状の職についている労働者はいると思い、学習会を企画した。

終了後、参加した若手の分会員が宮本さんに話しかけていたし、宮本さんからも「若い労働者が真剣に聞いてくれていて、とてもうれしかった」と感想を述べた。今後もいろんな企画を提案し、分代などでも意見を聞いて学習会を企画していきたい。

（教宣部長　陣内 恒治）

争議分会報告

現在、大阪支部において４件の労働争議を抱えています。梅南鋼材分会と大和運輸分会は労働委員会や裁判闘争になっていますが、それ以外のメトロ分会とシティバス分会の報告をしたいと思います。

大阪メトロとシティバスは、公営事業から民営化された会社で、もともと労働者は公務員で、自治労に加盟していました。民営化以後、第一組合に移行しました。

第一組合の特徴は、企業別労働組合で労使協調路線であり、労働者の要求が会社経営陣に届かない状態でした。分会員たちはその後、第一組合を脱退し、全港湾に加入しました。

全港湾に加入後、第一組合との中立保持義務遵守（組合活動の差別待遇、組合事務所の貸与、団体交渉の持ち方）、誠実交渉義務などを中心に交渉を進めて参りました。

大阪メトロは、まず、交渉担当者に人事課長以下４名が出てきますが、第一組合には社長以下取締役や人事部長が出席した団体交渉をおこなっています。また、合意した内容を協定化しないし、交渉議事録についてもサインしない。挙句の果ては第一組合と合意した内容で毎年、就業規則を変更され、全港湾のメトロ分会にも拡張適用され、団結権の侵害をおこなってきました。また、不可解な内示による人事異動もされ、このような不当労働行為に対して抗議行動を本社前で、２度おこないました。

大阪シティバスも同様に、団体交渉に第一組合には社長以下取締役が出席しているが、全港湾に対しては、人事課長、係長、弁護士２名と差別的な対応をとってきている。さらに要求に対する回答も第一組合には社長名で出てくるのに対し、全港湾には、弁護士名で回答してくる不誠実な対応でした。これらの対応に対し、シティバスに対しても本社前で抗議行動をおこないました。

しかし、現在は、両分会とも民間企業出身の交渉担当者に代わり、改善の兆しが見えてきています。

まだまだ安心はできませんが、中立保持義務、誠実交渉義務を守らせながら、職場改善を求めて闘っていきます。

（副委員長　吉本 賢一）

だんけつ

第３８５号　２０２４年７月２４日

発　行
大阪市港区築港１－１２－２７
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者　國分仁昭

第５０回衆議院選挙に向けて！

委員長　小林 勝彦

当初、2024年４月に衆議院解散、総選挙が噂されていたが、自民党派閥の裏金事件による内閣支持率のみならず、自民党批判が相次ぎ解散総選挙の時期は先送りせざるを得なかった。

いっぽう追い風を受けた野党第１党の立憲民主党は次期衆院選に向けて「政権交代」を掲げた「立民は自民党ではない政権をつくる大きな責任を担っている。『一緒に戦う』という党があれば話をしたい」と泉代表は21日の記者会見で、非自民政権樹立に向けた野党各党との協議に意欲を示した。

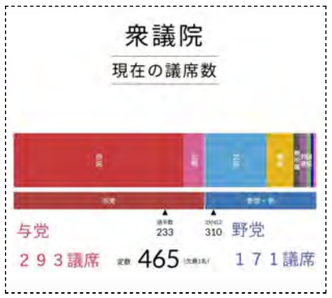
その前哨戦ともいえる４月の衆院３補欠選挙で立民は共産の協力を得て完勝し、政権に打撃を与えた。共産の田村智子委員長は東京都知事選でも「市民と野党の共闘」を訴えた。

2021年の前回衆院選で立民は共産、国民、れいわ新選組、社民党と２８９小選挙区中２１３で候補者を一本化。共産とは政権獲得時の「限定的な閣外からの協力」で合意し、両党の競合区を48に抑えた。

だが、自民に「立憲共産党」と攻撃されて敗北。野党統一で臨んだ２１３選挙区の勝率は28%にとどまった。中道票の離反が要因とされた。その事が尾を引いて立民は共産党とは手を結ばないなど野党共闘が出来ていないのが現実である。

そんな中、先日（６月30日告示、７月７日投開票）東京都知事選があった。立民と共産党が統一候補として支援するという事での無所属として蓮舫氏がいち早く立候補をした。その後、現職の小池氏、広島県安芸高田市元市長の石丸氏など、計56人が立候補をした。

今回の都知事選は告示から前代未聞の出来事が相次いだ。56の候補に対して、掲示板が48枠しかなく８候補が枠外掲示、また、ワイセツまがいの不適切ポスター、24枠の権利を寄付により取得した立候補者とは無関係のポスターと言う何から何まで異様だった。



２期８年の信任投票とされていた都知事選の結果は、小池氏の圧勝と言う形（報道）となりました。しかし、小池氏の得票率は43%くらいで、石丸氏と蓮舫氏の得票を合わせた数字より少なかった。そういうふうなことでいえば、信任されなかったというのともいえます。（小池氏291万8015票で、前回の2020年の366万1371票から約74万票減。石丸氏165万8363票、蓮舫氏128万3262票で足して294万1630票）。また、蓮舫氏が当選のみならず３位に甘んじたのは共産党との連携を拒否する立民支持者と連合によるものだと分析する著名人も数多くいます。

この様に、野党共闘が出来ずに政権交代の実現の足かせになっている原因は労働組合にある事も、我々は知っておかなくてはならない。

日本最大のナショナルセンターである連合は６月24日、通常国会閉会を受け、「政治とカネ」問題を巡る自民党の対応を批判し、次期衆院選で「与党を過半数割れに追い込む」とする清水秀行事務局長の談話を発表した。さらに「もう一つの政治勢力の結集が必要」と指摘した上で「その核となることを期待する立憲民主党・国民民主党と引き続き連携する」とも促した。反原発問題や安全保障問題など自民や維新寄りの考えを持つ国民民主党と連携するなど論ずるに値しないなどと話している。

これらを踏まえて、私たち大阪支部は来る衆議院選挙には、これまで通り平和憲法を護り、国民の立場に立った考え、全港湾のために働いてくれる政党や個人と政策協定を交わし、応援と協力をしていかなければなりません。

支部2024団結学校

６月23日に総勢38名で2024年団結学校を、港湾労働者第１福祉センターで開催しました。

恩貴島運輸闘争

第１講義を関谷書記次長から、1973年にあった、恩貴島（おきじま）運輸闘争について語られました。私の分会の先輩からも、すごい闘争であったと聞いています。

当時の大事な資料を関谷書記次長からお借りして拝見しました。

当時、親会社の下請けであった恩貴島運輸の従業員約１３０名が未組織労働者のため低賃金で、休日もなく、正月から半年たって計算すると１８０日のうち出勤が１７８日から１７９日という今では考えられない劣悪な労働条件で働いていた。

1973年６月26日に約１３０名のうち、36名が全港湾沿岸南支部（現在の大阪支部）此花荷役分会に加入しました。

同年７月11日に親会社の指示とみられる組合つぶしである偽装解雇が通知され、直ちに支部指導による恩貴島運輸闘争に突入し、同年７月26日には闘争が完全勝利で終結し、36名についても職場復帰できました。

当時の此花荷役分会の亀丸分会長は、厳しい戦いの２週間であったと書かれていました。私の大商分会も、過去に闘争があり、先輩方が築きあげた組合員に有利な労働条件を大阪支部に結集して守って行きたいと思います。

（教宣部　中山 謙一）

迫る問題と離れる人材不足の改善に向けて

第２講座は、南野車両部会長より物流の「2024年問題」の課題と、解決のための対策について講義がされた。

「2024年問題」とは、トラックドライバー不足による「モノが運べなくなる」問題のことである。具体的には、2024年で何も対策をしなかった場合、14.1%　、2030年では、34%の荷物が運べなくなると言われている。しかし、南野部会長は、問題を解決するには、そうした荷主サイドの視点から捉えるだけでは不十分だといった。トラックドライバー不足問題の原因が、低賃金・長時間労働という労働サイドの観点からくるものでもあるからだ。しかし、道半ばだが変わりつつある所もあるのだという。

それは、「国交省のトラックGメンの創設」や「改正貨物自動車運送事業法による標準的な運賃の告示制度の導入」。また、通常国会においても、労働条件の改善に向けた法案の審議などが想定されている。いずれも、儲けようとする会社に対する監視機能や人材不足問題を解決するための動きであるが、こうした動きの源流が、国民全体に対して、物流が生活を支える社会インフラだという共通認識のもと芽生えた問題意識なら我々の運動の一定の成果だと締めくくった。

（教宣部　笹川 開登）

2024岩国行動スタート集会

７月12日エルおおさかにて、2024岩国行動スタート集会が開催されました。

2006年３月、米軍基地再編による米空母艦載機の厚木から岩国移転に対する住民投票は反対の民意を示しました。しかし、それを踏みにじるかのように、国は岩国市新庁舎建設費の補助金計上を見送り、基地拡張（埋め立て）のために切り崩した愛宕山跡地を、米軍家族用の住宅用地として国が買い上げようとしていました。

岩国労働者反戦交流集会は岩国基地拡張に反対し、地域住民と連帯や労働者の反戦・反基地闘争の交流集会として、2007年より開催されていて、その前段として岩国行動スタート集会が開催されています。

主催者挨拶の後、「戦争準備で強化される岩国基地と周辺住民の影響」を新田秀樹（ピースリンク広島・呉・岩国）さんから報告を受けました。岩国基地だけではなく周辺の米軍や自衛隊基地も強化されている。岩国基地もミゲルキースやアメリカなどの米軍艦が寄港し、物資の集積地となっており役割が増している。オスプレイの配備が決定したことや、海軍に続き海兵隊の戦闘機もＦ35Ｂに代わり騒音が酷くなっているなどの説明がありました。また、海上自衛隊呉基地の強化は目を見張るものがあります。2023年に日本製鉄瀬戸内製鉄所呉地区が閉鎖された跡地を、「多機能的な複合防衛拠点」として防衛省が一括購入を申し入れています。内容は、①民間誘致を含む装備品などの維持整備・製造拠点②ヘリポートや物資の集積場などの防災拠点と艦船配備、訓練場などの部隊の活動基盤　③岸壁などを活用した港湾、としており、呉は海田（陸自第13旅団）に近く、佐世保（米海軍・海自）、岩国（米軍航空基地）と連携しやすい重要な場所と言っています。旧軍港市転換法では平和産業港湾都市として再生させるとなっていますが、旧軍港４港とも軍港として利用されています。呉基地の強化にも注視しなければと報告がありました。

各地からのアピールでは辺野古、横田、岩国、築城から反基地闘争の報告があり、実行委員会事務局長の南守さんより2024実行委員会結成報告と行動提起があり、「11月16日～17日に岩国で会いましょう」で集会を終わりました。

集会には執行部２名が参加しました。

（書記次長　関谷 和人）

カンパ～イ！共済会暑気払い

年々暑さが増すこの頃です。

2024年７月12日、共済会の恒例の取り組みである「暑気払い」が例年の場所とは違い、なんばパークスのビアホール「702caffe diner」にて開催されました。

今回の参加人数は、11分会、国民共済、含め合計70名に参加していただきました。

18時、和泉共済会副委員長による開会の挨拶が行われ、暑気払いが始まりました。

参加者の皆さんは、美味しい料理や飲み物を楽しみながら、共に仕事や組合活動による日々の疲れを癒し、また、各分会の方々と談話し、笑顔にあふれ、親睦を深められたと思います。

19時頃、大阪シティバス分会の方たちによる報告がありました。「新規立ち上げ分会なのでわからない事も多く、たたかい方など、いろいろな事を教えていただきたい」とのことでした。

共済会として、今後も何が出来るのか、われわれ一人ひとりが何が出来るのか、さまざまな事を考え、意見を共有する事が、大阪支部全体の団結に繋がり、支部が盛り上げていくと感じました。

20時、國分副委員長に締めの挨拶をして、暑気払いを無事終える事ができました。

今回の「暑気払い」のように、これからも共済会委員としてより良いレクリエーションを議論し、発信して行きたいと思います。

（共済委員　金津 亮介）